



2015年6月15日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社  
 コード番号 3086  
 代表者名 代表取締役社長 山本 良一  
 お問合せ先 経営戦略統括部  
 コーポレートガバナンス推進担当  
 IR・グループ広報  
 TEL 03-6895-0178

**2015年5月度 J.フロント リテイリング 連結営業報告**

1. セグメント別売上高（対前年増減率：％）

	5月度	3～5月度累計
百貨店事業	10.5	▲ 1.7
パルコ事業	8.9	4.4
卸売事業	7.4	15.9
クレジット事業	3.2	▲ 4.9
その他事業	22.3	▲ 2.7
連結合計	10.3	0.1

2. 売上高概況

1) 百貨店事業

- ・5月度の百貨店事業の売上高は、パラソル、サンダルなど初夏のファッションアイテムが好調に推移したほか、好調を続ける訪日外国人売上の嵩上げ効果などにより、ラグジュアリーブランドや美術宝飾品、化粧品が大幅に売上を伸ばしたことから、大丸松坂屋百貨店合計では対前年11.6%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同10.5%増となった。

2) パルコ事業

- ・訪日外国人売上の嵩上げ効果などにより、バッグ、化粧品、時計が好調であったほか、前年の消費増税実施後に落ち込んだ家電、楽器の売上が回復、伸長したことに加え、専門店事業ヌーヴ・エイの新規出店による売上増などもあったことから、パルコ事業全体では対前年8.9%増となった。

3) その他

- ・卸売事業の大丸興業は、電子デバイスが好調を維持し売上を伸ばしたことから、対前年7.4%増となった。
- ・クレジット事業のJFRカードは、割賦販売手数料収入やカード会員数の増加による年会費収入などが増加したことから、対前年3.2%増となった。
- ・その他事業は、J.フロント建装がグループ内外の内装工事の売上計上により大幅増となったことや、人材派遣業のディンプルが好調であったことから、対前年22.3%増となった。

お問合せ先	J.フロント リテイリング株式会社	コーポレートガバナンス推進担当 IR・グループ広報
TEL	03-6895-0178	
FAX	03-6674-7565	

## 2015年5月度 百貨店事業 営業報告

### 1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	5月度		3～5月度累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	28.6	▲0.4	11.5	▲3.8
大丸 梅田店	12.8	▲16.5	4.8	▲15.8
大丸 東京店	8.1	▲5.7	2.3	▲5.1
大丸 浦和パルコ店	▲3.9	▲8.3	▲4.9	▲4.0
大丸 京都店	10.1	▲9.2	▲2.4	▲10.5
大丸 山科店	▲3.3	▲5.4	▲6.6	▲7.0
大丸 神戸店	8.9	▲8.1	▲5.5	▲10.2
大丸 須磨店	▲3.3	▲13.3	▲5.7	▲12.7
大丸 芦屋店	1.0	▲8.9	▲3.3	▲10.0
大丸 札幌店	11.6	▲8.5	1.5	▲10.5
松坂屋 名古屋店	13.3	▲1.7	▲4.8	▲5.5
松坂屋 上野店	6.9	▲11.8	▲11.5	▲22.5
松坂屋 静岡店	4.6	▲4.0	▲9.6	▲7.2
松坂屋 高槻店	▲4.3	▲19.6	▲7.4	▲19.4
松坂屋 豊田店	2.0	▲3.4	▲2.5	▲1.3
<b>大丸松坂屋百貨店合計</b>	<b>11.6</b>	<b>▲8.6</b>	<b>▲1.2</b>	<b>▲9.9</b>
博多大丸	4.1	▲2.9	▲5.0	▲4.7
下関大丸	▲3.9	▲1.6	▲9.1	▲9.6
高知大丸	2.3	0.9	▲6.3	▲2.1
<b>百貨店事業合計</b>	<b>10.5</b>	<b>▲8.0</b>	<b>▲1.7</b>	<b>▲9.5</b>

### 2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	5月度	3～5月度累計
紳士服・洋品	8.8	2.1
婦人服・洋品	13.1	▲1.6
子供服・洋品	8.5	▲0.3
その他の衣料品	16.2	▲16.3
衣料品計	12.2	▲1.6
身 回 品	4.8	▲4.6
化粧品	35.4	12.3
美術・宝飾・貴金属	44.0	▲3.0
その他雑貨	48.7	33.8
雑 貨 計	40.6	6.2
家 具	8.4	▲28.0
家 電	▲6.7	▲1.6
その他の家庭用品	9.0	▲4.5
家庭用品計	8.2	▲10.4
生 鮮	1.3	▲0.2
菓 子	▲4.5	▲2.3
惣 菜	2.3	2.5
その他食料品	4.4	▲3.4
食料品計	0.2	▲0.8
食堂・喫茶	3.1	▲0.0
サービス	24.0	7.6
そ の 他	12.6	▲3.9
合 計	11.6	▲1.2

### 3. 売上高概況

婦人服・洋品は、ラグジュアリーブランドが4割増となったほか、初夏物のワンピース、パンツなども好調であった。紳士服・洋品は、スーツや気温の上昇にともないポロシャツ、パンツなどが活発に動いた。身回品は、サンダル、ミュールなどの婦人靴に加え、パラソル、帽子なども好調であった。雑貨は、時計は前年の7割増、宝石は4割増となったほか、化粧品も好調を持続した。家庭用品は、家具・敷物のほか、寝具、食器・調理用品などが売上を伸ばした。食品は、基幹店の大型物産展催事の開催日数減による影響が見られたものの、新ブランドを導入した札幌店や、催事が好調であった上野店などが売上を伸ばした。